

城上小学校だより「山と川と人とつながるたくましい子供」



ふるさと



学校 HP は、こちらからもご覧頂くことができます。

T E L 0996-30-0593

令和5年9月20日（水）発行

「教養とは、未来を見通す力」

校長 佐藤 義明

1年間で最も長い2学期が始まりました。9月1日（金）始業式では、いつもどおりの元気な表情で登校してくれた子供たちに「有り難う」と声をかけました。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、夏季休業中、あたたかく子供たちの安心・安全を見守りくださったことに、心より感謝申し上げます。今学期もどうぞ宜しくお願い致します。

さて、先般、全国学力・学習状況調査（4月18日（火）実施：対象6年生）の結果が公表されました。本校の結果概要は、裏面に示すとおりですが、児童質問紙からうかがえることを少し考察します。（数字は「はい」と答えた割合%です）

質問事項	本校	全国
▼ 自分にはよいところがあると思いますか	38.5	(42.6)
○ 先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか	69.2	(49.9)
○ 将来の夢や目標を持っていますか	61.5	(60.8)
○ 人の役に立つ人間になりたいと思いますか	76.9	(75.3)
◎ 学校に行くのは楽しいと思いますか	84.6	(49.8)
◎ 友達関係に満足していますか	92.3	(63.2)
▼ 家で計画を立てて勉強をしていますか	23.1	(28.7)

学校で過ごす本校の子供たちは、教師や友達と良好な関係性を築き、落ち着いて学べる環境の中、楽しく学校生活を送っていることが見えてきました。これは、人権尊重の精神、居場所づくり・絆づくりを学校経営の根幹に据え、魅力ある学校づくり、居心地のよい環境づくりを推進してきた一定の成果と言えるかもしれません。一方で、自分のよさの認識や学びへ向かう姿勢には課題があるようです。今後、より一層、自己有用感・肯定感を育み、学ぶことの意義を実感できる授業づくり、学級づくりを目指していきたいと考えます。

これからの時代に求められる力として、インプット型からアウトプット型の重要性が問われるようになりました。一昔前の学力は教科書や教師が伝達する知識を詰め込み、同じようにコピーした解答を表出することを正解の対象としてきた感がありました。つまり、「知っていること」に重きを置いていました。ところが現代はどうでしょう。スマホやインターネット等を活用すれば、大抵の知識は容易に得られます。情報収集の手段を駆使すれば、いくらでもインプットが可能です。大切なのは、獲得した知識を基に自分の頭で考え、自分の意見・考えをつくり、発信し、意見を交流する力・アウトプットする力です。

学力と似た言葉に、「教養」という言葉があります。イェール大学元助教授の齊藤淳氏は、その著書の中で、「教養は、未来を見通す力」と述べています。また、どのような価値観をもって知識と向き合うか、あるいは知識を得たうえで、いかなる価値観を構築し、社会の一員として生きていくかを理解した学習の主体者を「教養人」と呼び、単なる「知識人」と区別しています。私たちは、学力を単なる知識に終わらせず、学んだことを社会に活かせる、よき社会の形成者としての「教養人」を育てていきたいものです。



全国学力・学習状況調査の結果報告



今年の4月18日(火)に実施された、全国学力・学習状況調査の結果及び概要は、下記に示したとおりです。 【平均正答率による比較】

	国語	算数
本校の数値	67.0	55.0
全国の数値	67.2	62.5
全国との差	-0.2	-7.5

【評価の観点による比較】 (平均正答率)

国語	知識・技能	思考・判断・表現
本校の数値	66.2	67.5
全国の数値	68.9	65.5
全国との差	-2.6	+2.0
算数	知識・技能	思考・判断・表現
本校の数値	62.6	44.2
全国の数値	67.2	56.5
全国との差	-4.6	-12.3

【国語の分析結果】

- ・ 国語の平均正答率は概ね全国と同水準である。評価の観点においても全国との有意差は見られない。
- ・ 「書くこと」の問題では、全国を大きく上回るが、「情報の使い方に関する事項」や「読むこと」の問題で、やや下回っている。
- ・ 記述式の問題を苦手とする児童が一定数いるが、全体的には無回答も少なく努力のあとが見られた。

<学習領域での比較>一部抜粋

国語	情報の使い方に関する事項	書くこと
本校の数値	59.1	45.5
全国の数値	63.4	26.7
全国との差	-4.3	+18.8
算数	数と計算	図形
本校の数値	51.1	38.6
全国の数値	67.3	48.2
全国との差	-16.2	-9.6

【算数の分析結果】

- ・ 算数の平均正答率は、全国と大きな開きが見られた。特に、「数と計算」「図形」領域での差が顕著である。
- ・ 選択式の問題での誤答が多い。
- ・ 基礎的・基本的事項は習得していてもそれらを活用して問題を解く力が育っていないのではないかと考えられる。

【分析を基にした今後の取組(案)】

- ・ 児童同士が対話を通して課題を解決していくような、児童主体の授業への改善を図る。
- ・ 生活場面を想定した問題や資料を基に考える問題などに触れさせることで、事実に基づいて順序立てて考える力を育成する。
- ・ 発表に対して、受容的な聞き手の育成を進めていく。
- ・ 対象の学年だけでなく、分析結果を基に全学年で、系統的な指導に取り組んでいく。
- ・ 過去実施問題や演習問題等を活用し、問題の考え方や解き方と併せて、記述式の問題の考え方や答えの書き方についての指導も行っていく。
- ・ 日々の授業の振り返りや家庭学習の見届けなど、今後も継続して取り組む。



10月の主な行事



【10月】

- 1日(日) 第77回秋季大運動会
- 2日(月) 運動会振替休業日
- 5日(木) 委員会後期編成
- 12日(木) 国体バスケットボール観戦(6年)
- 14日(土) 稲刈り、稲干し(予定)
- 16日(月) 集団下校(命を大切に作る心を育む日)
- 20日(金) 元気塾(乾き亭げそ太郎さん講演)
- 27日(金) 稲取り(予定)



【2学期始めのいじめ問題・生徒指導について】

2学期が始まりました。どの子も元気に登校する様子が見られ、安心していますが、日常の様子を見ていると、自分の思いを優先するあまり、相手の気持ちや状況を考えられず、心のすれ違いになるケースが多く見られます。学級ごとに、発達段階に併せて話し合いを行ったり、ルール作りを行ったりしながら、児童と共によりよい改善を図るための取組を行っています。

10月の生活・保健目標



【生活】よく考えて行動しよう

【保健】けがの防止に努め、体をきたえよう。